

ヘンテコ物語
短めシヨート

作:ホカマ

資源がない

とある宇宙空間の中で地球から発射された3人が乗った宇宙船があった。その目的は地球上から無くなった資源を取り戻すため新しい資源が豊富な惑星を探しているのだ。

「船長、もう食べ物も燃料も尽きてしまいそうです。まだ目的の星はみつからないのですか？」と操縦士が言った。

同じように副操縦士が「そうです船長。6年間も航行を続けているのにまだ見つからないのですか？」

すると船長は「何を言う、あとたった5000kmではないか。レーダーはしっかりと見ているのか？」

「本当だ！船長！液体のようなものも見られます！」

「操縦士、それはみずなのか？」と副操縦士

「わかりませんがとにかく青いのは確かです！生物も見られるようですから多分みずでしょう！船長、速力をあげますか？」

「ああ、あげてくれ。俺も早く新鮮なみずが飲みたいんだ」

速力をあげて残り数百kmのところ。

「船長！貧しいですが町らしきものを確認できます。」

「それは本当か！操縦士！」

宇宙船が着陸した

「この星には水はあるようだが資源がないみたいだな」

するとこの星に住む住民が近寄ってきた

「@&¥8&2&1&232¥28」

「なにをいっているんだ？翻訳機を用意してくれ。副操縦士」

やがて翻訳が開始された。

「お願いします。私たちに何か恵んでください。水と土以外なにもないのです。」

すると船長が

「ごめんなさい、資源がなくなってしまったので丁度資源を探していたところなのでなにも持っていないんです。でも大丈夫です。私たちの宇宙船には地下を見透かすことができる機械があるのですぐに資源も見つかるでしょう」

「……………」

「どうしたんですか？もう始めてしまいますよ」

すると地下には大都市があるではないか。

資源が奪われてはたまらないから地下に都市を隠していたらしい。

「騙したな……………」

「……………」

「もう知らん。早く資源を引き上げてしまえ」

「町は破壊しろ」

「そんなことができるんでしょうかバリアがありますよ」

その住民たちは嘲笑った。だがその時バリアを破壊したのだ。

「えっ……………」

すると船長が「なんだこれは！全部土でできているではないか」

「船長、もう引き上げましょうこんな星にいてもなにもありません。水も飲んだし、帰る燃料もあるので食べ物だけ取っていきましょう。」

そして地球からの宇宙船は帰っていった。

そのあとその星の住民は

「奴らはバカだな本当に、地下にある都市なんて本当はホログラムなのに」

「本当の都市はここにあるのにな」

「空からきておいてよくきずかないもんだ」

そう言って住民たちは雲に続くエスカレーターに乗ってどこかに行った。